

令和4年度

「運営に関する計画」

最終評価



大阪市立新東三国小学校

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は比較的、安全で落ち着いた学習環境を有するが、今後さらに安全性を高めるためにハード面（平成 28 年度より始めた遊具エリアの土壤改修等）とソフト面（いじめ、不登校などを保護者、地域とも連携しながら解消あるいは未然防止すること等）の両面についてバランスをとって推進していく必要がある。

・令和 3 年度の大阪市小学校学力経年調査では 5 年は全科目で大阪市の平均点を上回り、6 年は算数以外の科目で大阪市の平均点を上回り、学力面について優良な成果をあげている。記述問題や「読むこと」の領域についても大阪市平均を上回っている。しかし、3 年は全科目で大阪市の平均点を下回り、4 年は社会科以外の科目で大阪市の平均点を下回っている。「読むこと」読解力や記述式の問題に課題がみられる。

・体力面については全国体力・運動能力、運動習慣調査において、ほとんどの種目で全国平均と大阪市平均のどちらよりも上回っていたが、男女ともに立ち幅とびが下回り、男子では上体起こし、女子では 20 m シャトルランに課題がみられたので、課題解決の取組が必要である。

・「全国学力・学習状況調査」の結果より、平均正答率は、国語科においては大阪市平均、全国平均を下回っている。算数科においては大阪市平均よりやや上回り、ほぼ全国平均並みだった。平均無解答率は、国語科、算数科いずれにおいても大阪市平均、全国平均よりも下回り、あきらめずに最後まで取り組もうとした姿勢がうかがえる。

・「読解力」「思考力」「表現力」を高めるために、資料を読んでまとめたり、自分の考えを書いたりする場を多く設定する。小学生からのリベラルアーツ教育を通して、総合的読解力を育成する。

・『SDGs』をテーマに研究授業に取り組み、児童の「主体的・対話的で深い学び」につながる授業をめざし、児童が学んだことを生活の中で生かしていく力をつけていく。

・学校のきまりである「廊下・階段を走らない」「右側通行」の徹底を図るために、いろいろな場面での声かけに努めるようにならがたが、十分とはいかない。階段に英語や九九のプレートを貼り、右側を意識できるようにしているが、さらに視覚的に「右側通行」を意識できるようにする必要がある。学校のきまりにおいては、継続しての指導が必要である。

・若手教員が増加しているので、若手教員育成を推進する必要がある。「学力向上支援チーム事業」のスクールアドバイザー（SA）と連携し、OJT（校内研修）の活性化を図る。

・新型コロナ感染症による学校行事等への影響がある中での学力保障を図る必要がある。一人一台学習者用端末の持ち帰りやデジタルドリルの活用を図っていく。

・コロナ禍における地域や保護者との連携のしかたを検討する。

デジタル教材の活用

保護者への周知

地域の方との協働による防災活動

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和 7 年度の児童アンケートにおいて「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目で、肯定的に回答する児童の割合を 92% 以上にする。
- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を、令和 3 年度 (94%) と同様に維持する。
- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 90% 以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 7 年度の大阪市小学校学力経年調査において、全学年、全科目の 9 割以上で大阪市の平均点を上回る。
- 令和 7 年度の英検 Jr. において、ブロンズ級受検者、シルバー級受検者の 80% 以上が合格標準点を取る。そのことにより、高学年ではゴールド級受検者が 5 % 以上になるようとする。
- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査・国語科の「思考・判断・表現」に関する項目の平均正答率を、令和 3 年度 (56.9%) より 5 ポイント増加させる。
- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を、令和 3 年度より 3 % 増加させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- デジタル教材を活用した学習を週 2 回以上実施する。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 を満たす教員の割合を 80% 以上にする。
- 令和 7 年度の小学校学力経年調査・校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、76.5% 以上にする。
- 令和 7 年度末の保護者アンケートにおける「学校は、保護者の思いや願いを生かすよう、努めている」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を令和 3 年度 (79%) より 5 ポイント増加させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を75%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- ・年度末の児童アンケートにおいて「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目で、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・年度末の児童アンケートにおいて「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を、令和3年度より増加させる。
- ・年度末の児童アンケートにおいて「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を33%以上にする。(R3 31.2%)
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を73%以上にする。(R3 72.3%)
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を60%以上にする。(R3 全国体力調査 58.8%)

学校園の年度目標

- ・子どもの世界を広げ、思考を深めるため、文理融合的な内容を含む「総合的読解力育成カリキュラム」に取り組み、小学生からのリベラルアーツ教育を実施し、言語活動・理数教育を通して思考力・判断力・表現力などの育成に取り組む。「主体的・対話的で深い学び」の授業を行う。
- ・英検 Jr. を4年生以上の児童が受検し、ブロンズ、シルバー、ゴールドの各級受検者の平均点が、それぞれ全国の平均点並みにする。
- ・複数の小学生新聞を活用し、朝学習で視写に取り組む。小学校学力経年調査における「学校の授業などで、自分の考えを文章に書くことは難しいと思いますか。」に「そう思わない」（難しいと思わない）「どちらかといえば、そう思わない」（どちらかといえば、難しいとは思わない）と答える児童の割合を43%以上にする。(R3 平均 42.5%、3年 42%、4年 36.4%、5年 42.9%、6年 48.8%)
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を60%以上にする。(R3 全国体力調査 58.8%)

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小学校）

- ・デジタル教材を活用した学習を週2回以上実施する。
- ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を80%以上にする。

学校園の年度目標

- ・デジタル教材を活用した学習を週2回以上実施する。
- ・ゆとりの日を月に1回以上設定する。
- ・校内研修を活性化させ、若手も経験年数の多い教員も一丸となって「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりを推進する。
- ・「学校図書館の毎日開館」「特色ある図書館の活用」を実践するために地域の協力を得ながら、ボランティアによる開館の管理や朝の読み聞かせを実施する。
- ・生涯学習ルームや地域活動協議会との連携による安全で安心な教育コミュニティを形成する。

【その他】

3 本年度の自己評価結果の総括

安全・安心な教育の推進では、「学校安心ルール」の徹底を行い、児童が安心して過ごせる教育環境の実現を図ることに取り組み、取組内容については概ね達成できた。規則尊重やいじめ撲滅に対しての意識向上を図ることができていた。児童アンケート「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目における肯定的答の割合は、94%と目標を維持した。また、全学年で、いじめアンケートを目標通り年3回実施し、「ある」と回答した児童への聞き取りや関係児童への対応を100%行い、記録の保管もしている。児童アンケート「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目における肯定的な回答の割合は、94%と目標を達成した。目標通り、生活指導連絡会を毎月実施し児童の実態を共有してきた。また、関係諸機関の協力も得ながら子どもサポートネットやケース会議を活用し、その内容を教職員で共有してきた。

次に、未来を切り拓く学力・体力の向上では、文理融合的な内容を含む「総合的読解力育成カリキュラム」に取り組み、小学生からのリベラル・アーツ教育を実施し、言語活動・理数教育を通して思考力・判断力・表現力などの育成に取り組み、「主体的・対話的で深い

「学び」の授業を行ってきた。「しんひがリベラル・アーツ」を掲げ、学習中はペアトークやグループディスカッションなど、考えを交流する場を多く持つようにした。小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の質問に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は 36.4. % であり (R3 31.2%)、昨年度より 5.2 ポイント上回った。

継続して全学年で英語音声指導に取り組むと共に、教員の英語指導力の向上のために積極的な研修・研究授業を推進し、児童の英語力を向上させ、英語が楽しいと感じられるように英語教育の強化を図ってきた。小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は 78% であった。また、児童アンケートで「英語が楽しい」と回答する児童は 78% であった。

子どもたちの健康増進のために、様々な取組を進めてきた。運動に関しては、児童が積極的に体を動かし、進んで体力づくりに取り組めるよう運動週間を設定した。食育に関しては、「食に関する指導の年間計画」に基づき、食に関する児童の興味関心を高めてきた。また、睡眠・清掃などの生活習慣などに焦点をあて、日々の生活を見つめられるようにし、SDGs の取組が日々の生活へとつながるようにしてきた。その結果、小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合が 64.5% で指標の 60% を 4.5% 上回った。(R3 全国体力調査 58.8%) 食育では、学年ごとに作成した「食に関する指導の年間計画」に基づき、学年ごとの目標を設定し、年間 3 時間以上の食育の学習を行い、食に関する児童の興味関心を高めることができた。清掃では、掃除ロッカーの整備を学期に 1 回以上行い、環境整備に努め、清掃を進んでおこなう児童を育てることができた。健康では、毎週の清潔調べで、ハンカチ 90% ティッシュ 88% とどちらも指標の 85% を上回っていた。

最後に、学びを支える教育環境の充実について、ICT 機器を活用して、考えを表現するためのプレゼンテーションを行ったり、一人一台学習者用端末を活用した学習に取り組んだりしてきた。検索機能を使っての調べ学習、カメラ機能を使っての観察・見学の記録や撮影した動画を再生視聴しながらの対話的学習など、一人一台学習者用端末を授業で活用できた。ICT を活用した授業時数については、1 年 12 時間、2 年 15 時間、3 年 27 時間、4 年 18 時間、5 年 30 時間、6 年 68 時間と目標を達成できた。

学校目標の達成に向け、教職員が「チーム新東三国」を意識し、心を一つに取り組んできた成果が少しづつ実を結んできた。運営に関する計画を常に PDCA サイクルで実態把握し、点検・改善をしながら年間を通して遂行してきたことで、児童が主体的に行動し、意欲的に学習する姿勢につながった。

(様式 2)

大阪市立新東三国小学校 令和 4 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標(小・学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 75%以上にする。 ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の児童アンケートにおいて「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目で、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。 ・年度末の児童アンケートにおいて「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を、令和 3 年度より増加させる。 ・年度末の児童アンケートにおいて「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 1、安全・安心な教育環境の実現】 「学校安心ルール」の徹底を行い、児童が安心して過ごせる教育環境の実現を図る。</p> <p style="text-align: right;">(安全教育の推進)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の児童アンケート「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目において、肯定的回答を例年同様に 9 割以上を維持する。 ・いじめアンケートを年 3 回行い、「ある」と回答した児童に聞き取りをしたり、集団へ指導したりすることを 100% 行う。すぐに解決できない事案については、いじめ対策委員会に報告し、いじめの解消に向けて全教職員での取り組みを 100% 行う。なお、必ず記録を残す。 ・毎月の生活指導連絡会や子どもサポートネットやケース会議で児童の様子を報告し、共通理解を図り、組織的に課題への対応にあたる。 	B
<p>取組内容②【基本的な方向 2、豊かな心の育成】 異学年交流や係活動、委員会活動や道徳教育、地域交流などを通して、児童が自分の良さに気づく体験の場を設ける。</p> <p style="text-align: right;">(道徳教育の推進、人権を尊重する教育の推進)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の児童アンケート「自分にはよいところがあると思いますか」の項目において、肯定的回答を 8 割以上にする。 ・全国学力学習状況調査「人の役に立ちたいと思いますか」の項目において、肯定的回答を 9 割以上で維持する。 	B

- ・年度末の児童アンケートにおける「気持ちのよいあいさつをしている」の項目について、肯定的回答を9割以上にする。
- ・児童会を中心として、地域や保護者と連携し、あいさつ運動を年3回行う。
- ・各委員会が児童会目標の達成に向けた活動を年1回以上企画・運営する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

- ・児童アンケート「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目における肯定的回答の割合は、94%と目標を維持している。
- ・全学年で、いじめアンケートを目標通り年3回実施した。「ある」と回答した児童への聞き取りや関係児童への対応を100%行い、記録の保管もしている。
- ・児童アンケート「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目における肯定的な回答の割合は、94%と目標を達成している。
- ・目標通り、生活指導連絡会を毎月実施し児童の実態を共有してきた。また、関係諸機関の協力も得ながら子どもサポートネットやケース会議を活用し、その内容を教職員で共有してきた。

取組内容②

- ・年度末の児童アンケート「自分にはよいところがあると思いますか」の項目において、肯定的回答は86%で8割を上回っている。
- ・年度末の児童アンケートにおける「気持ちのよいあいさつをしている」の項目について、肯定的回答は84%で、9割には至っていない。
- ・地域や保護者の立ち当番の方と、同じ時間帯でのあいさつ運動の取り組みや、赤い羽根募金に協力していただくなど児童会が中心となり、活動することができた。また、あいさつ運動を年3回行った。
- ・各委員会が児童会目標達成に向けた取り組みを企画・運営することができた。

次年度への改善点

取組内容①

- ・学校のきまりや規則を守ることが100%に近づくよう、次年度も全体指導や学級での指導を継続していく。アンケートへの肯定的な回答が高い一方で、きまりを守ることができていない場面が見られるため、特に、廊下や階段の歩行ルールについての意識づけが必要である。
- ・次年度も、年3回のいじめアンケートを全学級で実施し、100%対応をすることで早期発見・早期解決をしていく。アンケートに挙がった事例について、必要に応じて毎月の生活指導連絡会で共有していくことも検討する。
- ・次年度も、全教職員での課題の共有と対応、関係諸機関との連携を継続し、組織的に取り組んでいく。

取組内容②

- ・あいさつの指導について全体で話し合い、取り組む必要がある。
(実際に廊下であいさつをしても返事をしない児童が多くいる)
- ・あいさつに関する掲示を教室やろうかにはる。
- ・あいさつ週間などの取り組みを、日常のあいさつ指導につなげる手立ての工夫が必要。

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 33%以上にする。(R3 31.2%) ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。 ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 73%以上にする。(R3 72.3%) ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 60%以上にする。(R3 全国体力調査 58.8%) <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの世界を広げ、思考を深めるため、文理融合的な内容を含む「総合的読解力育成カリキュラム」に取り組み、小学生からのリベラルアーツ教育を実施し、言語活動・理数教育を通して思考力・判断力・表現力などの育成に取り組む。「主体的・対話的で深い学び」の授業を行う。 ・英検 Jr. を 4 年生以上の児童が受検し、ブロンズ、シルバー、ゴールドの各級受検者の平均点が、それぞれ全国の平均点並みになるようにする。 ・複数の小学生新聞を活用し、朝学習で視写に取り組む。小学校学力経年調査における「学校の授業などで、自分の考えを文章に書くことは難しいと思いますか。」に「そう思わない」（難しいと思わない）「どちらかといえば、そう思わない」（どちらかといえば、難しいとは思わない）と答える児童の割合を 43%以上にする。(R3 平均 42.5%、3 年 42%、4 年 36.4%、5 年 42.9%、6 年 48.8%) ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 60%以上にする。(R3 全国体力調査 58.8%) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>子どもの世界を広げ、思考を深めるため、文理融合的な内容を含む「総合的読解力育成カリキュラム」に取り組み、小学生からのリベラル・アーツ教育を実施し、言語活動・理数教育を通して思考力・判断力・表現力などの育成に取り組む。「主体的・対話的で深い学び」の授業を行う。</p> <p>(言語活動・理数教育の充実)('主体的・対話的で深い学び'の推進)</p>	B

指標	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学校の授業などで、自分の考えを文章に書くことは難しいと思いますか。」に「そう思わない」(難しいと思わない)「どちらかといえば、そう思わない」(どちらかといえば、難しいとは思わない)と答える児童の割合を43%以上にする。(R3. 42.5%) ・小学校学力経年調査における「読むこと」「記述式回答形式」の平均正答率を前年度以上にする。(R3. 「読むこと」70.4%「記述式」59.8%) ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を33%以上にする。(R3 31.2%) 	
取組内容②【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】	<p>継続して全学年で英語音声指導に取組むと共に、教員の英語指導力の向上のために積極的な研修・研究授業を推進する。また、児童の英語力を向上させ、英語が楽しいと感じられるようにする。</p> <p style="text-align: right;">(英語教育の強化)</p>	
指標	<ul style="list-style-type: none"> ・研修計画にそって、英語の公開授業を年に3回以上実施する。 ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を73%以上にする。(R3. 72.3%) ・児童アンケート「英語が楽しい」と回答する児童を80%以上にする。 ・英検 Jr. において、ブロンズ、シルバー、ゴールドの各級受検者の平均点を、それぞれ全国の平均点以上にする。 	B
取組内容③【基本的な方向5、健やかな体の育成】	<p>子どもたちの健康増進のために、様々な取り組みを進める。体を動かすことに喜びを感じ、進んで体力づくりに取り組む子どもを育てる。また、「食に関する指導の年間計画」に基づき、食に関する児童の興味関心を高める。睡眠・清掃などの生活習慣などに焦点をあて、日々の生活を見つめられる子どもを育てる。SDGsの取組が日々の生活へつながるようにしていく。</p> <p style="text-align: right;">(体力・運動能力向上のための取組の推進)</p>	
指標	<p>【運動】・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を60%以上にする。(R3 全国体力調査 58.8%)</p> <p>・積極的に運動に励むように、年3回以上の運動週間を設定する。</p> <p>【食育】・学年ごとに作成する「食に関する指導の年間計画」に基づき、学年ごとの目標を設定し、年間3時間程度の食育の学習を行い、食に関する児童の興味関心を高める。</p> <p>・各学級で給食目標や給食だより等を用いて、食に関する指導を月1回以上行う。</p> <p>【清掃】・掃除ロッカーの整備を学期に1回以上行い、環境整備に努め、清掃を進んでおこなう児童を育てる。</p> <p>【健康】・毎週の清潔調べで、ハンカチ・ティッシュを持ってきている児童の割合を85%以上にする。</p> <p>・各学級でほけんだよりや保健の月目標等を用いて、健康に関する指導を月1回以上行う。</p> <p>・睡眠の大切さについて、児童や保護者の意識を高めていくために、「生活ふりかえりカード」を活用した取り組みを年に2回行い、保健だよりで結果を知らせると共に、児童へ指導する。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

・学校全体で研究の視点に沿って授業を展開することができた。そのため、授業などで自分の考えを文章に書くことができるようになった児童が増えた。小学校学力経年調査における「学校の授業などで、自分の考えを文章に書くことは難しいと思いますか。」に「そう思わない」(難しいと思わない)「どちらかといえば、そう思わない」(どちらかといえば、難しいとは思わない)と答える児童の割合は46%であった。(R3. 42.5%)

・新聞の活用や、朝の学習タイムなどを通して読解力を上げるための取り組みを積極的に行い、情報を読み取る力を養うことができた。小学校学力経年調査における「読むこと」「記述式回答形式」の平均正答率は「読むこと」71%「記述式回答形式」54.7%であった。

(R3. 「読むこと」70.4%「記述式」59.8%)

・「しんひがリベラル・アーツ」を掲げ、学習中はペアトークやグループディスカッションなど、考えを交流する場を多く持つことができた。小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は36.4.%であった。(R3 31.2%)

取組内容②

- ・英語の公開授業を年に3回以上実施した。
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を78%であった。
- ・児童アンケート「英語が楽しい」と回答する児童が78%であった。
- ・英検Jr.において、各級受験者の平均点は、ブロンズ本校 80%、全国 85%、シルバー 本校 85%、全国 84%、ゴールド 本校 75%、全国 74%

取組内容③

【運動】・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合が64.5%で指標の60%を4.5%上回った。(R3 全国体力調査 58.8%)

・年3回以上の運動週間を設定し、児童が積極的に運動に励むことができた。

【食育】・学年ごとに作成する「食に関する指導の年間計画」に基づき、学年ごとの目標を設定し、年間3時間以上の食育の学習を行い、食に関する児童の興味関心を高めることができた。

・各学級で給食目標や給食だより等を用いて、食に関する指導を月1回以上行った。

【清掃】・掃除ロッカーの整備を学期に1回以上行い、環境整備に努め、清掃を進んでおこなう児童を育てることができた。

【健康】・毎週の清潔調べで、ハンカチ90%ティッシュ88%とどちらも指標の85%を上回っている。

・各学級でほけんだよりや保健の月目標等を用いて、健康に関する指導を月1回以上行なうことができている。

・「生活ふりかえりカード」を活用した取り組みを年に2回行い、保健だよりで結果を知らせると共に、児童へ指導し、睡眠の大切さについて、児童や保護者の意識を高めることができた。

次年度への改善点

取組内容①

・「総合的読解力育成カリキュラム」を推進していくにあたり、思考ツールや ICT 機器の活用を進めていくことが求められる。

・育成したい力の幅が広いので、研究授業として取り組む際はテーマを絞る必要がある。

・「記述式」の問題に対応できる力を、身につけさせるための手立てについて考えていく。

取組内容②

・児童アンケートで「英語が楽しい」と答える児童の割合が増えるように、英語の活動内容を工夫する。

・児童アンケートで目標とする割合を見直す。

・英語力を養うために、外国語の授業を中心に児童に働きかける。

取組内容③

【運動】・次年度も引き続き、積極的に運動に励むように計画していく。

【食育】・次年度も引き続き、食育の学習を行い、食に関する児童の興味関心を高めていく。

各学級で給食目標や給食だより等を用いて、食に関する指導を月 1 回以上行う。

【清掃】・次年度も引き続き、環境整備に努め、清掃を進んでおこなう児童を育てていく。

【健康】・次年度もほけんだよりや保健の月目標等を用いて、健康に関する指導を月 1 回以上行っていく。

・「生活ふりかえりカード」を活用した取り組みを年に 2 回行い、保健だよりで結果を知らせると共に、児童へ指導し、児童や保護者の意識を高めていく。

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教材を活用した学習を週2回以上実施する。 ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を80%以上にする。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教材を活用した学習を週2回以上実施する。 ・ゆとりの日を月に1回以上設定する。 ・校内研修を活性化させ、若手も経験年数の多い教員も一丸となって「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりを推進する。 ・「学校図書館の毎日開館」「特色ある図書館の活用」を実践するために地域の協力を得ながら、ボランティアによる開館の管理や朝の読み聞かせを実施する。 ・生涯学習ルームや地域活動協議会との連携による安全で安心な教育コミュニティを形成する。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6、教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 ICT機器を活用して、考えを表現するためのプレゼンテーションを行ったり、一人一台学習者用端末を活用した学習に取り組んだりする。</p> <p>指標 ICT機器を活用して、自分の考えをプレゼンテーションしたり、他者の考えを受けて、意見交流する場を設定したり、デジタル教材を活用したり、プログラミングに取り組んだりする総時数を、1年は年間10時間以上、2~3年は年間12時間以上、4~6年は年間15時間以上実施する。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 「学校園における働き方改革推進プラン」にそって、負担軽減に向けた様々な取組を推進する。</p> <p>指標 ゆとりの日を月に1回以上設定する。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 校内研修を活性化させ、若手も経験年数の多い教員も一丸となって「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりを推進する。全員公開研究授業の中で、お互いに学びあい、日々の授業改善にいかしていく。</p> <p>(教員の資質向上)</p>	B

指標	<ul style="list-style-type: none"> ・全員公開研究授業を年間 1 回以上行う。 ・メンターを中心に、指導法の研修・研究を進め、年間 10 回以上の公開研究授業を実施する。 ・研究討議会で話し合ったことを記録・整理し、日々の授業改善に努める。 	B
取組内容④【基本的な方向 8、生涯学習の支援】	「学校図書館の毎日開館」「特色ある図書館の活用」を実践するために地域の協力を得ながら、ボランティアによる開館の管理や朝の読み聞かせを実施する。 (学校図書館の活性化)	B
指標	月 1 回以上、読書を家庭学習にする。また、年 2 回以上、読書週間を実施する。	
取組内容⑤【基本的な方向 9、家庭・地域等との連携・協働した教育の推進】	生涯学習ルームや地域活動協議会との連携による安全で安心な教育コミュニティを形成する。 (教育コミュニティづくりの推進)	
指標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との交流を全学年で行う。 ・地域や保護者との協働行事として、防災訓練、引き渡し訓練、新東三国イングリッシュデイを計画的に実施する。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
取組内容①	<ul style="list-style-type: none"> ・検索機能を使っての調べ学習、カメラ機能を使っての観察・見学の記録や撮影した動画を再生視聴しながらの対話的学習など、一人一台学習者用端末を授業で活用した。 ・ICT を活用した授業時数（今年度末見込み） (1 年 1 2 時間、2 年 1 5 時間、3 年 2 7 時間、4 年 1 8 時間、5 年 3 0 時間、6 年 6 8 時間) 	
取組内容②	<ul style="list-style-type: none"> ・「ゆとりの日」を月 1 回以上設定できるよう、行事、会議などの調整を行った。 	
取組内容③	<ul style="list-style-type: none"> ・公開研究授業を年間で一人 1 回以上行うことができた。 ・年間合計 22 回の公開研究授業を実施することができた。 ・ベテラン教員や外部講師から「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりに触れながら、専門的な教科の指導法について学ぶ機会を多く設定することができた。このことにより、校内研修が活性化され、若手も経験年数の多い教職員も日々の授業が改善された。 	
取組内容④	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ボランティアによる「朝の読み聞かせ」、月一回の「家庭読書の日」、年 2 回の読書週間、図書委員会による学校図書館の毎日開館を計画的に実施することができ、読書への興味関心を高めることができた。 	
取組内容⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・『セーフティよどがわ』との防災学習や交通安全教室、保護者との引き渡し訓練、全学年での朝の読み聞かせ等を通じて、地域の方々や保護者との交流を行うことができた。 ・2 学期の地域合同防災訓練では、地域防災リーダー、区役所、消防署と広く連携して取り組み、地域全体での防災意識を高めるとともに、地域交流を行うことができた。 	

- ・新東三国イングリッシュデイについては、感染症に配慮して取り組み、児童が楽しく英語に慣れ親しむ活動をすることができた。

次年度への改善点

取組内容①

- ・ICT に関する研修等を実施する。
- ・ICT 教育アシスタントを有効に活用する。

取組内容②

- ・「ゆとりの日」の月 1 回以上の設定を継続する。
- ・行事、会議等の精選をするとともに、会議の時間短縮を行う。

取組内容③

- ・公開研究授業は、メンターを中心として、お互いに授業をつくったりふり返ったりする場を設けることで、さらに深い研究・研修にしていくことが望ましい。
- ・「授業改善」のための学びあう内容は、精選する必要がある。

取組内容④

- ・地域の方々との交流を継続して行う。

取組内容⑤

- ・次年度も、地域や保護者との協働行事を計画し実施する。保護者の参加率を高めていくために、保護者への案内を早めにする。
- ・地域の方の参加規模の大きな「地域合同防災訓練」「イングリッシュデイ」については、運営が円滑に進行するように、地域と学校との打ち合わせをさらに綿密にする。
- ・防災訓練で学習・体験した内容を、各教科の学習や校内避難訓練に活かすことで、継続的な学びとしていく。